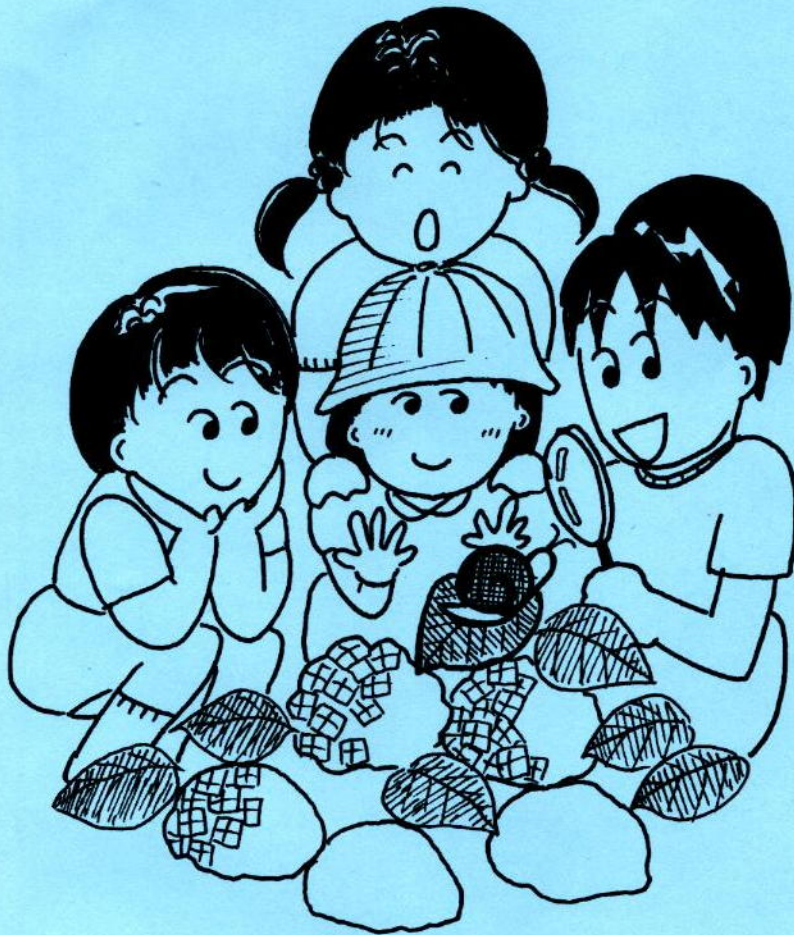


谷小 自学のすすめ



小千谷市立小千谷小学校

よりよい学びの習慣を育てるために ～「谷小 自学のすすめ」の活用～

このたび、小千谷小学校では、「学ぶことのよりよい習慣づくり」をサポートするために、「谷小 自学のすすめ」を作成しました。

勉強ができるようになりたい、もっと速く走れるようになりたい、楽器が上手に演奏できるようにになりたい……そんな「よりよい自分」をめざす願いをどの子どももっています。

よりよい自分の実現のためには、自分で学習に取り組んだり練習したりする「日々の努力」が大切です。小さなことでも積み重なれば大きな力となるからです。

学校での授業だけでなく、家庭学習も、「自学」として自分で進んで取り組めば、「よりよい自分」に近づくことになることでしょう。そして「自学」が、朝の「おはよう」のあいさつや食後の歯磨きのように「やることが当たり前」の「習慣」になれば、他の生活習慣にもよい影響を与えたいと思います。

この冊子では、国語・算数・社会・理科・生活科を取り上げて、自分で学ぶための方法やヒントをまとめて示してあります。学校でも「よりよい学びの習慣」育成に向けた取組をしていきますが、家庭でも、この冊子を参考にして、子どもたちの「よりよい学びの習慣づくり」を支えてほしいと願っています。

「少しずつ」でいいのです。少しでもできたら、子どもを褒め、励ましてやってほしいと思います。そして、学びの習慣が土台となって、「もっと知りたい」「これは、どうなっているのだろう」と、子どもたちの学びの世界が広がり、豊かになってほしいものです。

もちろん、ここには載っていないことでも、子どもたちが自分で工夫したり先生に聞いたりして「自学」をより豊かにしてほしいと願っています。

活用に 向 け て

1 全体編

○初めに、お子さんと一緒に読んでください。

2 各教科編の構成

「1. ○○ではこんなことを学習します」…教科の学習の特性が書かれています。

「2. ○○は、こんなふうに学習しましょう」…その教科の学習をする上で大切なポイントが書かれています。

「3. ○○の自学のヒント」…主に発展的な学習のヒント（国語と算数は、基礎基本の定着についても）が書かれています。宿題以外の毎日の自学のヒントとして活用してください。

3 その他

○学年によって方法は異なりますが、記録をしっかり残すことも大切にします。

○休みの日も、家庭学習に取り組めるといいと思います。ただし、家庭や地域の予定がある場合はこの限りではありませんので、各ご家庭で判断してください。

○1人に2冊配ります。家と学校に1冊ずつ置いて使います。

自学のすすめ

「自学」…文字通り、「自ら学ぶ」＝「自分から学ぶ」という意味です。
みなさんは、学校でも家でも学習していますよね。では、そのうちどれくらい「自分から」学習しているのでしょうか？先生やおうちの人に言われるから仕方なく学習しているという人も多いのではないのでしょうか。

「いやだけれどがんばる」というのは、とても立派な心ですし、これからも大切にしてほしいと思います。けれども、いやいや学習させられるのではなく、自分からすすんで取り組みれば、もっと楽しく学習できるのではないのでしょうか。

『そんなこと言われても、何を学習したらいいかわからないよ。』『それにどうやって学習したらいいかわからないよ。』という皆さんの声が聞こえてきそうです。

この「自学のすすめ」はそんな皆さんのために作りました。何をどんなふうに学習したらよいかというヒントがたくさん書かれています。おうちの人と一緒に読んでみてください。

学習の約束

学校で

- 1 学習の準備をしっかりとしましょう。
 - 忘れ物をしないように前日のうちに持ち物の点検をしましょう。
 - 学校で決められた学習用具、学用品を使いましょう。（えんぴつはけずってありますか？）
 - 次の授業の準備をしてから休憩しましょう。時計を見て行動しましょう。
- 2 授業中は
 - 先生や、友達の話をよく聞きましょう。
 - 聞くだけでなく、自分から手をあげて、発言しましょう。そのためには、よく考えながら授業に参加しましょう。
 - よく分からないことがあったら、えんりょなく質問しましょう。後で先生に聞いてもいいですよ。
 - ノートをきれいに書きましょう。
 - ・後で見て、学んだ足跡が分かるようにします。（日付を書きます。）

まいにちがくしゅう
○毎日学 習しましょう。

・時間^{じかん}は、宿題^{しゅくだい}を含^{ふく}めて、1年生^{ねんせい}10分^{ぶん}、2年生^{ねんせい}20分^{ぶん}、3年生^{ねんせい}30分^{ぶん}、4年生^{ねんせい}40分^{ぶん}、5年生^{ねんせい}50分^{ぶん}、6年生^{ねんせい}60分以上^{ぶん}を目指^{めざ}しましょう。

○「わかる」ことと「できる」ことの両^{りょうほう}方が大切^{たいせつ}です。意味^{いみ}がよく分か^わり、それがよりよくできることを目指^{めざ}しましょう。

あす じゅぎょう よしゅう
○明日^{あす}の授業^{じゅぎょう}の予習^{よしゅう}をしましょう。

・教科書^{きょうかしょ}の、明日^{あす}学 習^{がくしゅう}するところを読み^よみ、よく分^わからないこと^にに印^{しるし}を付^つけたり、付せん紙^{ふせんし}をは^はったりしまし^しょう。次^{つぎ}の日の授業^{ひ じゅぎょう}で、その分^わからないこと^にに気^きを付^つけて学 習^{がくしゅう}すると、授業^{じゅぎょう}がとてもよく分^わかるようになります。

がっこう がくしゅう ふくしゅう かんじ し
○学校^{がっこう}で学 習^{がくしゅう}してきたこと^をを復 習^{ふくしゅう}しまし^しょう。また、漢字^{かんじ}やローマ字^し、計算^{けいさん}など、くり返し練 習^{れんしゅう}することで実 力^{じつりょく}が^つくものもあ^あります。

○この「自学^{じがく}のすずめ」をヒントに自分^{じぶん}なりに工夫^{くふう}したり、チャレンジ^{くふう}したりしまし^しょう。工夫^{くふう}やチャレンジ^{くふう}をしてい^いると、だんだん学 習^{がくしゅう}が楽^{たの}しくな^なってきます。そして、知^しらないうち^にに実 力^{じつりょく}が^ついてい^いきます。

どくしょ がくしゅうじかん べつ まいにちすこ しゅうちゅう
○読書^{どくしょ}をしまし^しょう。学 習^{がくしゅう}時間^{じかん}とは別^{べつ}に、毎日^{まいにち}少^すしでいいので、集 中^{しゅうちゅう}して本^{ほん}を読み^よましまし^しょう。好^すきな本^{ほん}から始^はめて、だんだん他^{ほか}の本^{ほん}にもチヤレンジ^{ちやれんじ}してい^いきましまし^しょう。

がっこう つか べつ じがく つく
○学校^{がっこう}で使^{つか}うノート^ととは別^{べつ}に、自学^{じがく}ノート^とを作^{つく}りましまし^しょう。

じつりょく ため たの う 実力を試そう～テストを楽しみに受けよう

「やらされる学 習^{がくしゅう}」から「自分^{じぶん}からする学 習^{がくしゅう}」になったとき、あなた^{あなた}の実 力^{じつりょく}は自分^{じぶん}でもびっくりするほど伸^のびているはず^{はず}です。それ^{それ}を試^ため^めするのが、いろい^{いろ}ろなテスト^{テスト}です。

たど かん じ けいさん たんげん
例^{たど}え^えば、漢字^{かん じ}や計算^{けいさん}のミニテスト^とや単元^{たんげん}ご^ごのワークテスト^とがあ^ありますね。
また、国語^{こくご}と算数^{さんすう}の学年^{がくねん}テスト^とも行^{おこな}っています。毎^{まい}回^{かい}、範^{はん}圍^いを予^よ告^こしま^ますの^ので、計^{けい}画^{かく}的^{てき}に準^{じゅん}備^びをして、楽^{たの}し^しみに受^うけてく^くだ^ださい。

国語 自学のすすめ

1 国語では、こんな学習をします

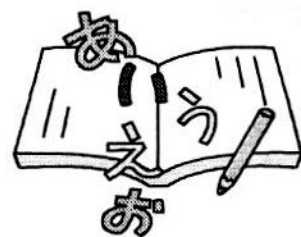
国語は、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことと言葉の使い方について学習します。そして、自分の伝えたいことを正しく伝え、人が伝えていることを正しく分かる力を身につけます。さらに、それらを通して、考える力や想像する力を身につけられるようにします。

そのため、自分のしたことや調べたこと、考えたことなどを話したり、友達の話や聞いてたりする学習をします。また、文章を読んで、その内容をみんなでも考える学習をします。さらに、自分のしたことや考えたことを文章に書き表す学習もします。

2 国語は、こんなふうに学習しましょう

話す

○ 聞く人をしっかりと見て、分かってもらえているか考えながら話しましょう。



聞く

○ 話している人が何を言っているのかを考えながら聞きましょう。自分の考えと比べながら聞けるともっといいですね。

読む

○ 音読する時は、背筋を伸ばして、口を十分に開けて声をしっかり出して読みましょう。つかえたり、間違えたりしないで読めるようになるまで、何度も練習しましょう。

○ 物語を読むときは、どんな筋なのか考えたり、登場人物はどんな気持ちなのか、どんな様子なのかを想像したりしながらじっくりと読みましょう。

○ 説明文を読むときは、筆者の伝えたいことは何なのか考え、それに対する自分の考えをもちながら読みましょう。

書く

○ 文章を書くときは、誰に向けて、何のために書くのかを考えながら書きましょう。書き終わったら読み返して、よりよい文章にしましょう。

言葉

○ 漢字は繰り返し練習して、正しく覚え、進んで使いましょう。

○ 分からない言葉は辞書で調べてみましょう。

3 国語の自学のヒント

ステップ1

音読練習

- ①一人で声を出して教科書を読んでみましょう。おうちの人に聞いてもらって読んでみましょう。
- ②教科書以外の本を、声に出して読んでみましょう。

ステップ2

視写

- ①教科書などをそっくり書き写すことを「視写」と言います。「、」や「。」、行かえや一字下げ（段落）に気をつけ、正しく、速く、きれいに書きましょう。

ステップ3

漢字練習

- ①習った漢字は、その日のうちに確実に覚えてしまいましょう。ドリルなどを使い、前に習った字もときどき復習しておきましょう。

ステップ4

話す・聞く

- ①おうちの人によく分かるように、学校での楽しかったこと、おもしろかった本のことなどを話してみましょう。
- ②テレビのニュース番組などを見ながら、分かったことをメモしましょう。

ステップ5

読む・書く

- ①物語の中から、場面の様子や登場人物の気持ちがくっきりと浮かんでくるところを見つけて、ノートに書き写してみましょう。
- ②空想インタビュー（物語の登場人物に質問を書き、自分で登場人物になりきって答える）をノートに書いてみましょう。
- ③登場人物に手紙を書いてみましょう。
- ④説明文を読んで、考えたことを筆者への手紙の形で書いてみましょう。
- ⑤説明文を読んで、まとめごとに小見出し（10文字前後）をつけてみましょう。また、まとめごとの要点（20文字前後）を書き出してみましょう。
- ⑥文章の中から、事実の部分と筆者の意見の部分に分けて書き出してみましょう。
- ⑦いろいろな文字数（10字、20字、30字、100字、200字など）で文章全体での筆者の意見をまとめてみましょう。
- ⑧好きな遊びのやり方について、その遊びを知らない人にも分かるように順序よく書いてみましょう。
- ⑨自分の身近な経験から題材を決め、書く材料を集め、メモを書き、構成をして、考えがはっきりと伝わるような作文を書いてみましょう。「～と思う。」「～と考える。」「～だろうか。」など文末を工夫してみましょう。
- ⑩新聞記事を1つ選び、それについての意見を書いてみましょう。
- ⑪「おやっ」と思ったことや「おもしろいな。」と感じたことを詩や俳句、短歌に表してみましょう。



社会 自学のすすめ

1 社会科では、こんな学習をします

社会科では、わたしたちの生活を取りまく世の中のことを学習します。

小千谷のこと、小千谷のまわりのこと、新潟県のこと、日本のこと、世界のこと、日本と世界の歴史、政治のこと、国際社会のことなど、身の回りのことから始めて、だんだん広い世界のことを学習するのです。

それらの学習を通して、いろいろなことを知ることができるほか、調べたり、考えたりする力、資料を読みとる力、調べたことをまとめ、表現する力をつけていきます。

そして、皆さんが大きくなったときに、世界の中の日本人として、日本国民として、あるいは地域社会の一員として、しっかりした考えをもって判断し、生きていける立派な大人になるための基本を身につける学習をするのが社会科なのです。

2 社会は、こんなふうに学習しましょう

調べる

○いろいろな調べ方があります。一つの調べ方だけでなく、いろいろな調べ方にチャレンジしましょう。

<例> ・教科書 ・資料集 ・図書室 ・市立図書館 ・見学
・インターネット ・インタビュー

○あることがらについて、一つの資料だけを見て、「わかった!」と思わず、できるだけ多くの資料を調べて、いろいろな考え方や意見にふれましょう。「本当はどうなのかな?」といつも疑うことが大切です。

○調べたことは、順序よく必ず記録しておきましょう。

見直す

○調べてきたことをもとに考えましょう。

・調べて分かったいくつかのことを比べてみましょう。1つ1つは分かったつもりだったのに、比べてみたら分からないことが出てくるとことがあります。また、分かったことをつなげて説明しようとしたら、うまく説明できないということがあります。これが社会科のチャンスなのです。分からない、説明できないことの中にこそ大事なことがかくされているのです。

・自分の考えを見直してみよう。ひょっとして見落としていたことに気づくかも知れません。もし、行きづまったら、また調べてみればいいのです。友達と考えればいいのです。



表す

○調べたり分かったりしたことを、新聞やレポートに分かりやすく表してみましょう。特に、自分の考えがどのように変わってきたかを大切にしましょう。

3 社会の自学のヒント

ステップ1

身近な
“?”探し

- ①身の回りなかにあるいろいろなことの中から、たくさんの“?”(はてな)を見つめましょう。それを調べていくと、さまざまな「へえー」に出会います。分わかったことは秘密ひみつにしないで、みんなに教えてあげる新聞しんぶんやレポートにまとめてみてください。

<例> ・シャンプーの容器ようきの横よこには、なぞの凸凹でこぼこがある。何なにだろう？

→調べてみたら、目の不自由め ぶじゆうな人のための工夫くふうだ。

→他にもこういう工夫くふうはないかな？

→あった！…点字ブロック・テレホンカードのくぼみ

・電話機でんわきの5のポツ・お札さつの丸印まるじるし

ステップ2

ニュースを
見よう

- ①一日いちにちに一度いちどはニュースを見ましよう。できたら、そこから“?”や“!”を見つめ、自学じがくノートに書かきましょう。
- ②NHK総合そうごうで土曜日どようびの夕方ゆうがた放送ほうそうしている「週間しゅうかんこどもニュース」は、むずかしいことをととても分わかりやすく教おしえてくれます。できるだけ見ましよう。感想かんそうや意見いけん、疑問ぎもんを自学じがくノートに書かきましょう。

ステップ3

地図をか
く

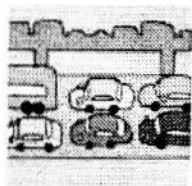
- ①皆さんにとって一番いちばん身近な、家いえの周りまわりの地図ちずをかいてみましよう。初めはじは何なにも見みないで、頭あたまの中なかにうかんでくる道みちや建物たてもの、目印めじるしなどをかいてみます。かけたらその地図ちずを持って、実じつ際さいどうなっているのかを見みに行いき、つけたしたり直なおしたりします。どんなにおいや音がするかなどもかきこむといいです。
- 少しずつ地図ちずにかく範囲はんいを広ひろげていけると楽しいですね。紙かみをつなぎ合わせると、小千谷こうくちず小学校のオリジナル校こう区く地図ちずができますよ。

ステップ4

旅行記を
かく

- ①週末しゅうまつや長い休やすみを利用して、旅行りょこうに行くことができますよね。「ああ、楽しかった！」で終わおらせず、旅行記りょこうきを書かきましょう。新聞しんぶんでもいいし、パンフレットでもいいです。すぐろくを作るのもとても楽しいですよ。

必かならずかるといいのは、・地図ちず、・その土地どちの名物めいぶつ(どうしてそれが名物めいぶつになったのか)、・小千谷こうと比べてのちがい(気候きこう・食べ物た・言葉ことば・町並みなど)です。デジカメで撮とった写真しゃしんをはるなんていうのもいいですね。



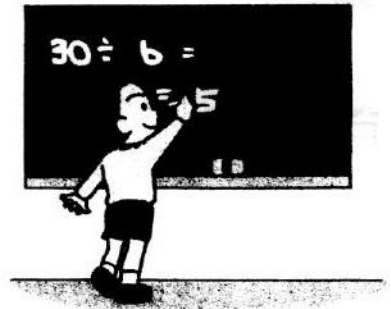
算数 自学のすすめ

1 算数では、こんな学習をします

数量，図形などのきまりや名前を学習したり，計算などの処理をする力を高めたりします。また，学習したことを使って，筋道立てて問題を考えていきます。

算数の時間では，こんな学習をします。

- ・整数，小数，分数などの意味や書き方，たし算・ひき算・かけ算・わり算などの計算のしかたを学習します。
- ・長さや重さ，かさの単位や，面積や体積の意味を知ったり，正しく求めたりできるようにします。
- ・三角形や四角形などの図形や直方体，立方体などの立体図形について学習します。
- ・数量の関係性を式やグラフなどに表します。



2 算数は、こんなふう学習しましょう

問題をよく読もう，
き
聞こう

○問題をよく読み，分かっていることと分からないことをはっきりさせましょう。そして，この問題は何を求めればいいのかをはっきりさせましょう。

自分の力で
かんが
考えよう

○問題を解決するのに，今まで学習したことを生かせないか考えましょう。今まで学習したことと，この問題は何がちがうのかをはっきりさせましょう。
○仲間の考えをよく聞き，自分の考えと比べましょう。いろいろなやり方がある場合，どのやり方が簡単で，正しくできるかを考えましょう。

よく練習しよう

○学習して分かったことを確実に身につけるためには練習が必要です。毎日こつこつ練習しましょう。計算のやり方や公式は，後の学習で使うので，覚えましょう。

3 算数の自学のヒント

ステップ1

計算練習 をしよう

- ①教科書の練習問題をもう1度やってみましょう。
 - ②計算ドリルをやってみましょう。
 - ③問題集などの問題をやりましょう。
- ☆自分でまるつけをして、まちがえた問題は「どうしてまちがえたのか」を確かめ、もう1度やってみましょう。

ステップ2

文章題を とこう

- ①問題をよく読み、式を立て、答えを求めましょう。
 - ②物を使ったり、図をかいたりして考えてみましょう。
 - ③解けそうで解けないむずかしい問題にもねばり強く挑戦しましょう。
 - ④自分で問題を作り、解いてみましょう。
- ☆答えが合っていたかどうかだけでなく、「なぜそうなるのか」「どのように考えて解いたのか」をノートに言葉で説明できることが大切です。

ステップ3

いろいろな 図形をか いてみよう

- ①定規やコンパスなどを使って、いろいろな図形をかいてみましょう。
- ②定規やコンパスなどを使って、いろいろなもようや絵をかいてみましょう。
- ③立方体や直方体を作って、遊びの道具や、生活の道具を作ってみましょう。

ステップ4

学習した ことを生活 に生かそう

- ①時計を読んだり、遊び時間や勉強時間などの時間を計算したりしましょう。
- ②自分の一歩の長さを測り、歩数を数えて、目的地までの距離を測りましょう。
- ③買い物に行く前やお店で買い物をするときに、合計やおつりがいくらになるか考えてみましょう。消費税を入れた金額も求めましょう。
- ④個数と値段が異なるものを買う時に、どちらを買う方が得なのか計算してみましょう。
- ⑤目的地までの距離と自動車の速度から、だいたいどれくらい時間がかかるか考えてみましょう。
- ⑥かかった時間と自動車の速度から、目的地までの距離を求めましょう。
- ⑦目的地までの距離とかかった時間から、移動の速さを求めましょう。
- ⑧植物の生長記録や読書の時間などの数値を、表やグラフに表してみましょう。

理科 自学のすすめ

1 理科では、こんな学習をします

理科では、自然の出来事について、比べることでちがいを見つけたり、計画的に実験や観察をしたりする中で物事を解決することを学びます。

それらの学びを通して、その内容をふだんの生活とつなげて考え、自然を大切に思う気持ちや科学的なものの見方や考え方ができるようになることを目指しています。

そのためには、生活の中でいろいろなことを体験し、身近な自然について、日頃から「何だろう?」「どうしてだろう?」という疑問をもって見ていく目を大切にしましょう。

2 理科は、こんなふうに学習しましょう

観察や
実験を
たの
楽しもう

○観察の手順を紙に書いて計画してみましょう。

○観察するときには、「ありの目」のように、小さなところまで細かく見ていくことや、「鳥の目」のように上から全体を見通すようにするなど、見る角度を変えてみていきましょう。

○実験や観察に必要な器具の正しい使い方をきちんと理解して使いましょう。器具を正しく使うことで、正しい結果や答えが出てきます。

「なぜ」
の解決
方法を
増やそう

○疑問に思ったことは、実際にやってみたらよいのか、本や図鑑などで調べてみたらよいのかなど、問題を解決する方法について学びましょう。

○いろいろな調べ方を試し、体験してみましょう。

体験と知
識とをつ
なげよう

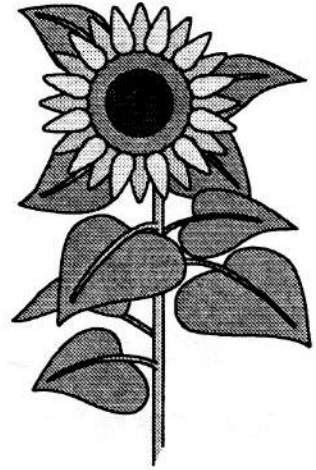
○高学年になると、今まで体験してきたことをもとにして、新しい課題について考えていく内容が増えてきます。今まで学習したことを基礎として、事実をつなげて考えるようにしましょう。

3 理科の自学のヒント

☆理科は大きく次の3つの分野について学びます。興味のもてる
ところから自学に取り組みましょう。

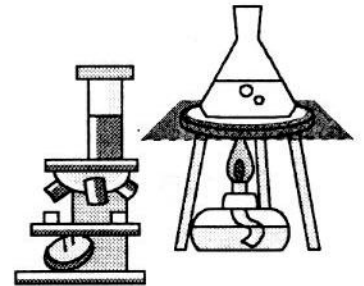
生物と その環境

- ①身近な昆虫や植物を探したり育てたり
してみましょう。
- ②身近な昆虫や植物を続けて観察してみ
ましょう。成長の様子、体のつくり、
季節の変化による動きや生長の変化に
着目しましょう。
- ③生物の種類の違いによる体のつくりの
違いなどについて調べてみましょう。



物質と エネルギー

- ①日常生活の中や遊びの中で、いろいろな
実験を考え、試してみましょう。
- 〈例〉
- ・空気でっぽうや水でっぽうで遠くまで飛ば
すにはどうしたらよいか。
 - ・磁石の力を強くするにはどうしたらよいか。
 - ・同じ量の水にたくさんの食塩を溶かすにはどうしたらよいか。
 - ・てこの働きを使って重い物を動かすにはどうしたらよいか。



※実験にはやり方をまちがえると危険な場合があります。周囲の様子に
気をつけ、安全に実験をしましょう。また、思いつきで実験をせず、し
てもよい実験かどうか、先生や家の人に聞いてから行いましょう。

地球と 宇宙

- ①気温の変化や、場所による温度のちがいを測ってみましょう。
- ②月や星の観察をしましょう。時間による月や星の動き、季節による
星座の変化に着目しましょう。
- ③プラネタリウムやインターネットで星の動きを見てみましょう。

生活科 自学のすすめ

1 生活科では、こんな学習をします

生活科は、具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々（地域の人や学校で働く人など）や、社会や自然とのかかわりについて学習します。

それらの学習を通して、自分のことや自分の生活について考えて、家での生活の中で必要な習慣や役割を身につけていきます。

2 生活科は、こんなふう学習しましょう

すすんで体験してみよう

- 直接「見て」「ふれて」「感じて」の体験をたくさんすることで、いろいろな考えや思いを深めていきましょう。



「ふしぎだな」、「すごいな」と思ったことを大切にしよう

- 人や生活の中の疑問や、自然の中での不思議なことをたくさん見つけていきましょう。

工夫して取り組もう

- 自分たちの遊びや生活をより楽しくするにはどうすればよいかを、工夫してみましよう。より楽しく充実したものを目指していきましょう。

いろいろな表現をしてみよう

- 具体的な活動や体験をすることで、観察して気づいたことを、繰り返し表現してみましよう。すると、新しい疑問が出てきたり、考えが深まったりします。

〈表現の方法例〉

- ・ 絵画 ・ 立体 ・ 造形 ・ 絵カード ・ 壁新聞 ・ 地図 ・ 作文 ・ 手紙
- ・ 図工や国語、音楽などの他教科とつなげて考えるなど。

3 生活科の自学のヒント

ア 自分たちの生活を支えている人やいろいろな場所について考えてみよう。

- ・わたしたちは、たくさんの人から支えられて生活しています。どんな人がどんなことをしているか調べましょう。また、みんなで使う場所（図書館・公民館・公園など）についてもいろいろ調べてみると新しい発見があります。

イ 家でお手伝いをしよう

- ・家族のことを考えて、自分にできることを進んでお手伝いしましょう。家での仕事はたくさんあります。決まったお手伝いをするこゝで、家族の一員としての役目を果たしていきましょう。

ウ 健康で安全な生活に気をつけよう

- ・元気に生活するには健康が大切。よりよく成長するためには、規則正しく生活することが大切です。また、安心して生活するために安全に気をつけて生活するように心がけましょう。

エ 地域の行事やイベントには進んで参加しよう

- ・地域の活動や小千谷市のイベントに参加することで、自分たちが住んでいる地域をよく知ることができたり、新しい発見があったりします。楽しいことがたくさんあるので、できるだけ参加してみましょう。

オ 季節の変化を感じて工夫しよう

- ・春、夏、秋、冬と季節によって生活の仕方が変わります。着ている服や食べ物も変わってきます。また、季節によってできる遊びもあります。「この季節だからできる」ことを楽しみましょう。



カ 身近な生き物や植物とかかわろう

- ・気に入った花を育てて観察してみましょう。
…小さな種からだんだんと大きくなって花が咲いてくる様子をじっくり見ましょ
う
- ・生き物の観察をしてみましょう。ザリガニやチョウチョ、トンボ、セミ、バッタなどを捕まえて飼ってみたり、観察したりしてみると、いろいろな疑問が出てきます。図鑑などで調べてみましょう。